

世界の子どもたちのために

# Wish

ユニセフ兵庫ニュース

Vol.23  
(2008年冬・春合併号)

子どもの生存



© UNICEF/HQ07-01/08/Thierry Delvigne Jean



## 2・3...第6回ユニセフのつどい開催

- 4...報告会「報道されない素顔」(パレスチナ)
- 5...講演会「南アフリカから学ぶ」
- 6...ユニ・ボラ塾報告/ボランティアチーム紹介

- 7...出前学習会/ブルキナファソ報告/ハンド・イン・ハンド
- 8~11...トピックス(07年10月~08年3月)
- 12...お知らせ



# 第6回ユニセフのつどい開催 2008年3月15日

# 世界のともだちと心をつなごう♪

## Presentation

### 『Made in ...』



神戸市立科学技術高等学校生による『Made in...』  
 食品には、原料や生産地、添加物等の情報を表示することが義務付けられています。このことによって、私たちは食の安全に対する関心を持ち、また、それに関する不正が無いかを監視するということに結びつきました。私たちの提案は、武器・兵器にもこのような表示をするということです。考えてみれば戦争・紛争は武器・兵器がないと成り立ちません。それらは当事者が作っているものでしょうか？ では、誰が作っているのでしょうか？ そしてそれらが明らかになったとき、人はどのような行動をとるのでしょうか？

社会や暮らしの中で、問題を見つけその解決策を提案する、「全国高等学校デザイン選手権大会」(2007年)で文部科学大臣賞(優勝)を受賞された『Made in...』の提案コンセプトより引用。



右から、神戸市立科学技術高校のジェップ・テウン・アムくん、梶原千種さん、田中天さんと司会の末吉洋文さん(帝塚山大学准教授)。

**元気なアフリカ・タンザニアに触れて**  
 募金贈呈式や活動紹介に続き昼食交流の時間には、タンザニア・ムタンゴ大使をお迎えするためにカンガ(東アフリカの布)の着付けが始まり、参加者は色鮮やかに変身。また、企業や学校等の活動パネル、ユニセフ支援グッズ等を壁面を使って紹介しました。  
 午後からは神戸西高等学校の和太鼓でスタート、続いて大使からタンザニア紹介の素晴らしいレトリックをいただきました。最後はジェンベ(アフリカの太鼓)と和太鼓のコラボで、会場全体が大きな輪になりました。竹本会長から「毎年、こうやって一つずつ積み重ね、今年もまたみなさんと出会えたこと、平和であることに幸せに感じています。つどいに関わってください。来年もお会いしましょう」と、お礼の言葉を述べました。

**「今」を考える、さまざまな角度から 若者そしてジャーナリストの視点**  
 3月15日(土)、コープこうべ生活文化センターホールで、第6回「ユニセフのつどい」世界のともだちと心をつなごう♪を開催、約170名が参加し交流も含め楽しい時間を過ごしました。  
 神戸市立科学技術高等学校の3名による発表(デザイン選手権文部科学大臣賞受賞)『Made in...』では、「なぜ人は大金をかけて兵器をつくるのでしょうか?」「戦争や紛争とは悲しみについての話です。自分のつくりだすものに一切責任をとらない人、何についてもイメージすることを放棄してしまった人についての話です。」などと訴えると会場からは大きな拍手が起きました。フリージャーナリストの大津司郎さんは、ルワンダの虐殺やスーダンの紛争を取りあげ、アフリカの現状を知ることこそ、世界の最前線、もっと違いについて知って欲しい」と話されました。



## 講演会 フリージャーナリスト 大津司郎さん 「アフリカ序章 取材現場から」

スライド、ビデオを見ながら、ルワンダの置かれている厳しい状況をたどる。大虐殺が起こったときのニュースから、定員の5倍を超える刑務所の過酷な様子。中には無実の人も含まれている。17歳のごく普通の少年、新政権を信じて帰ってきた人々など。また一方、虐殺によってルワンダの75%の子どもは殺害を目撃しているという。家族を目の前で殺害された子どももいる。虐殺が行われた教会は、後世に事実を伝えるため、そのまま残されている。  
 大津さんは、「ユニセフのつどい」の2週間前にも中田英寿氏(元サッカー日本代表選手)と共にタンザニア、ルワンダ、コンゴを訪れ、その様子は6月2日(21:30~)、TV放映される予定。

マラリア予防に防虫剤を練り込んだ蚊帳「オリセットネット」

## タンザニア紹介

「愛・希望・尊厳」にあふれるタンザニア、多くの課題もかかえながら国の発展を願いチャレンジしているタンザニア、自然あふれる明るいタンザニア、大使のお話でタンザニアがぐんと近くなりました。



エリー・ムタンゴ特命全権大使と清水邦子さん：タンザニアとご縁はアフリカ横断の旅での忘れられないできごととの出会いがきっかけか。(在日タンザニア大使館中部地区名譽代表)



右からジェンベの加納さん、井上さん、ダンスの浅田さん。快適なリズム、心地よい響きが会場にあふれます。



2月にタンザニアに開所した工場の紹介や 企業としての取り組み姿勢などを、住友化学(株)内山さんから紹介いただきました。

**募金贈呈式：**右から、伊藤ハム(株)、清里ハイランドパーク、神戸市職員労働組合、コープこうべ、コープこうべ定時職員協議会、コープこうべ労働組合、兵庫県いなみ野学園(敬称略)



**ネットワーク：**全国で26ある地域組織のうち、宮城、大阪、広島、香川からも参加していただきました。



**昼食・交流タイム：**各テーブルに分かれておにぎりをバクリ。初めて会った方のお話もはずみずみ。



**エリー・ムタンゴ大使入場：**つどいに駆けつけてくださった大使を、参加者でお迎えしました。



**歓迎の太鼓：**みごとな演奏は神戸西高校のみなさん。心に体に響いてきました。



**パートナー企業：**伊藤ハム(株)、コープこうべ、住友化学(株)、フジレாம்(株)、日本ハム(株)など、各企業の社会貢献活動紹介のパネル。(敬称略)



**アフリカのパネル展示：**ジャーナリスト大津司郎さんの写真を熱心に見る参加者。胸に迫るアフリカの現実、人々の姿。



**閉会あいさつ：**兵庫県支部・竹本会長からのお礼のことば。





講師:プロフィール  
寺畑由美さん

ドイツ生まれ、17歳までニューヨークで育つ。慶応大学総合政策学部卒業。2003年の5月から、NPO法人「地球のステージ(本部・山形)」の現地駐在員としてパレスチナ・ガザ地区最南端の町、ラファに住み、国境線沿いや入植地の周辺に住んでいる青少年を対象にした心理社会活動を開始。現地入りしてから4年半、唯一の外国人として活動を続けている。  
現在、活動と共にアル・クッズ大学(Gaza市内)でコミュニティー・メンタル・ヘルスの修士課程在学中。愛ネコトラと2人暮らし。

# 「報道されない素顔」 パレスチナの子どもたちと4年半」

2007年10月20日(土)、コープこうべ生活文化センター4階会議室において、会場満席の中、NPO法人地球のステージ現地事務所「フロントライン」スタッフ寺畑由美さんによる「パレスチナ・ガザ地区での青少年支援活動報告会」を開催しました。

映像には現地の子どもの様子・報道されない生の声が映し出され、素顔と出会えた貴重な2時間でした。2003年現地(ガザ地区ラファ)入りして12~15歳の子ども対象のプログラムを実施された4年半、寺畑さんが出会った時15歳だった少年少女達の当時の様子と2~3年後の様子。子ども達の言葉を聴いていると、日本の子ども達が感じたり悩んだりするのと変わらない普遍的な等身大の姿がみえてきます。ただ日本と異なるのは、ラファが将来を考える事が困難で社



会的にも経済的にも閉鎖された地域であること。少年の家がイスラエル軍によって破壊された時「(イスラエルの)一般の人達に罪は無い」と言える姿に感動をおぼえたとともに、それはパレスチナの人達だけでなく被害を受けているイスラエルの人達にとっても同様で、紛争という事への本質的な問題提起なのではないか考えさせられました。「フロントラインのプログラムは、自分達が子どもでもある事、自由を感じさせてくれた」という子ども達の言葉が心に残ります。

14歳の時にインティファダにあったという。私はその子たちの話に圧倒された。もちろん悲惨な目にあってきている経験もそうであるけれど、何よりもあふれだすような言葉に。それは将来の夢でも、寺畑さんとの思い出でも、あるいは好きな音楽についても、話題を問わずそうだった。一番心配なことは卒業試験だと聞いて考えることは同じなんだと思った。映像が終わった時にはまるで彼女達と友達になったような気がした。  
「報道されているのは実際とは違う、ファタハもハマスもほんの一部の人たちなのに。ほとんどの人は私たちと同じ一般人なのよ...」2人の女の子の言葉が強く印象に残った。

目で見ることで分かったような気分になってしまいうけれど、映像が切り取られるのは事実のほんの一部だけだ。私もこの報告会を聞かなければニュー



## 寺畑さんの講演を聞いて 県支部ボランティア 上村 順次

パレスチナ問題がマスコミ報道されるたびに、いつも「難しい厄介な問題やなあ」と感じながら永年聞き流してきた。今回、その国で単身4年半あまり、青少年支援の活動に関わっている日本女性のお話があると聞き参加をしてみました。

寺畑さんは、ドイツ生まれのニューヨーク育ちという環境でそだったせいか、日本語表現には少し苦労されるジェスチャーをしながらも、やや小柄な身体に似合わず、エネルギーな活動報告をされていました。活動に入られた場所・ガザ地区はイスラエルによってライフラインは管理されていて食料は人的通路とは別なルートから運ばれているというのである。

ガザ地区の4割の土地にユダヤ人入植者が6000~8000人前後居住しているといわれるが、以前からの疑問のひとつは、イスラエル建国以来軍力により占領地域を拡げ、軍隊に守られながらの入植生活に本当に平和な暮らしが営まれると思っているのであろうかということである。

寺畑さんの活動の母体である「フロントライン」によれば、ガザ地区の人口の半分ぐらいが子どもたちで、その子どもたちの家を一軒一軒訪れ、子どもたちに安心な居場所を作ってあげることが目的としているということ。また傷ついた子どもたちのケアなどにも取り組んでいると紹介された。

映像の中の子どもの、**「将来はフロントラインのような仕事をしたい」**という発言には、寺畑さんならずとも、見るものにとっても希望を抱かせてくれるものでした。

## 報告会で思ったこと UNIES 成田 千尋

スライドに映し出された地図を見て、そうだ、こんな場所があったんだと思ひ出す。イスラエルのガザ地区の最南部ラファ。寺畑さんが活動されていたのはそこだった。しばらくは写真を見ながらの概要説明。街を取り巻く鉄の壁、爆撃された家、イスラエル軍の監視塔、毎日銃声が聞こえるという環境に、日本との違いを思い知らされた。

スライドの説明が終わると、寺畑さんが現地で撮影されたビデオが上映された。登場するのは2人の女の子。



講師:プロフィール  
佐竹純子さん

プール学院大学短期大学部准教授。ジェンダー論、国際理解などを担当。1980年代、日本反アパルトヘイト女性委員会を経て、現在、関西・南部アフリカネットワーク世話人。翻訳にミリアム・トラディ著『アマンダ ソウェト蜂起の物語』(現代企画室)。

# 「南アフリカから学ぶ」 『虹の国』に生きる人々とその文化



2007年11月24日(土)、コープこうべ生活文化センター5階会議室で約40人が参加し、「南アフリカから学ぶ~『虹の国』に生きる人々とその文化~」をテーマに、プール学院大学短期大学部准教授・佐竹純子さんの講演会を開催しました。

アパルトヘイトとは、アフリカンス語で分離を意味し、支配する少数の白人と支配される大多数の非白人の人種的区別のこと。1948年、アパルトヘイト政権誕生以前、南アフリカ連邦が成立時よりすでに厳しい人種差別がありました。しかしソウェト蜂起をはじめとする反アパルトヘイト闘争などを経て、1991年、アパルトヘイト政策が廃止され、1994年、ネルソン・マンデラが大統領に。南アフリカは「悲しみの大地」から「虹の国」へ大きな一歩を踏み出しました。十数年が過ぎた今、政治的には平等になったと言われていますが、経済的には変わっていません。貧しさの



中で希望を見出せない人々、貧しさゆえに犯罪に走る人々、HIV/エイズの広がりも子ども達の犠牲も無関係ではありません。佐竹先生が実際にホームステイをされた体験を交えながら、現在の南アフリカの人々の暮らしや生き方や時代の流れをスライドやゴスペル音楽とともに紹介。私たちができることは何かを参加者に問いかけました。参加者からは2010年に南アフリカで開かれる「FIFA ワールドカップ」、南アフリカの人々と音楽とのかかわりについての質問もあり、南アフリカの人々の生活に触れる貴重な講演会となりました。

## 講演会「南アフリカから学ぶ」 に参加して 高校3年生 来住 麻生

南アフリカについて、地理や世界史で学ぶごく上辺だけの知識しか持ち合わせていなかった私には、この講演会は一歩のカルチャーショックであり、目からうろこ...の体験でした。南アフリカで当たり前のように実施されていた人種差別政策アパルトヘイト。それは一部の白人が大多数の非白人を差別し、制限し、管理し、隔離してきた歴史の数々。多くの人たちの人間としての尊

厳を取り戻すための努力や戦いがあり、1991年にアパルトヘイト廃止を勝ち取るまでの困難な道のり。私たちに考えられないような挫折や犠牲、そして草の根活動があったこと、アフリカにおけるHIV/エイズの蔓延もいつも矢面に立たされているのは子ども達であることを知りました。  
よその国のこと。知らなければ知らないままで済ますこともできます。でもそれではいけないことを学びました。最後に聞いた「南アフリカ共和国の現在の国歌」。今までさまざまな出来事があったにもかかわらず、コサ語、ソト語、アフリカンス語、英語の4つ

の言葉で構成された国歌の美しいメロディは私の心に響きました。  
今、日本でも「AIDS チャリティ Project」として小田和正さんの「生まれ来る子どもたちのために」という曲をたくさんアーティストがカバーするなど、少しずつですがエイズや子ども達の幸せについて見直され始めています。私には何ができるかわかりませんが、「愛する人を守り給え!」この歌詞の通り、他人事ではなく、関心を持つことがスタートだと思いました。

スとして知るだけで、パレスチナに実際に生きている子ども達が何を感じ、考えているかなど、意識することもなかったかもしれない。本や新聞を読んでも、大学で講義を聴いても、いつも実感させられるのは気づかずにいる現実の抱える問題の多さである。そしてそのどれもが一人ではどうしようもないことばかり。でも、だからといって無関心であってはいけないのだ。まず知る事。知ればいろんなことを考えられるし、それを誰かに伝えることも

できる。ビデオに出てくる女の子の一人は、なぜ大学に行っているのと聞かれて「自分ひとりでも何かを変えられるかもしれないから」と言っていた。きっとそうなのだ。何でも最初は一人から始まるのだから。  
私にも何かできるかもしれない、というよりも、何かしなければという気分にはさせられた。まずはこの報告会で聞いたことを忘れずに、少しでも知る努力を続けていきたい。そして、情報を共有しているボランティアの皆さま

んと、もっと輪を広げる活動を楽しもうと思う。楽しむことが大切、というのも寺畑さんがおっしゃっていたことだった。誰かの犠牲になってるなんてつもりは少しもない。継続することができなくても、一時だけでもがんばればいいのではないかと結ばれた。  
まだまだ書き足りない気がするけれど、この報告会は本当にいろいろなことを考えさせてくれた。最後になってしまったけれど、このような機会を与えてくださった方々に感謝したい。

## 2007年度のユニボラ塾は参加型学習

昨年度のユニボラ塾は、2006年度に引き続き帝塚山大学の末吉洋文先生を講師として、3回行われました。参加者が楽しんで学習できるように、ワークショップ手法を取り入れてとの願いを先生が快く受け入れてくださり、毎回ドキドキしながら勉強しました。

第1回目(7月30日)は20名の参加。「難民とは何か」がテーマでした。「難民と歩んだ10年」の緒方貞子・元国連難民高等弁務官のNHKビデオが参加者の感動を呼びました。冷戦崩壊後の国内紛争による難民の急増にもかわらず、まだまだ



他人事のようにしかうけとめられない日本のあり方について、改めて認識しました。

第2回目(9月29日)のテーマは「児童労働」でした。児童労働はなぜ悪いのか、家庭内のこどもの仕事との違いは何か、過酷な労働が子

学習支援チーム 戸崎文子

もから奪い去るものとは何か、「子どもの権利条約」をもとにして一歩踏み込んで学べました。

第3回目(11月24日)は、20名の参加、「武力紛争と子ども」がテーマでした。国際法や子どもの権利条約と武力紛争との関連について、想像力を発揮する学習が求められました。法や条約と現実の矛盾が一番大きく出る分野であり、正直難しかったと思います。2008年度も引き続きユニボラ塾を開催し、さらに深く世界の子どもの様子や状況などについて学んでいける機会をもちたいと思っています。テーマについてのご希望など、一般の方からのご要望もお待ちしております。

## 須磨みどり幼稚園への出前学習会 ユニセフ王子も活躍! (ク・マン) 2007年11月8日(木)

対象はこれまであまり例のない幼稚園児。どのような内容にすればユニセフを理解してもらえるか? 学習チームの杉山三千さん以下3人のメンバーは、1カ月前から準備に入りました。まずシンプルに一字ずつ文字を増やす格好で「ユニセフ」の言葉を何度も繰り返して覚えてもらうところから入りました。途中からユニセフ王子も参加して、楽しいクイズを通して簡単なユニセフのABCを学んでもらいました。スライドで大きな紙芝居をみんなで楽しむ頃には、子どもたちもすっかりユニセフワールドに入り込み瞳が輝



きだしました。「この年代のこどもには、楽しみながらユニセフを言葉から覚えてもらえれば・・・」これまで、小・中・高等学校、大人対象の学習会は数多く対応してきましたが、

これからは今回のノウハウを生かして幼稚園の出前学習会にも前向きにかかわっていきます」と杉山さんは、この日の確かな手ごたえを話してくれました。

# Hand in Hand

宝塚会場

全国一斉の街頭募金活動「第28回ユニセフ ハンド・イン・ハンド」を12月23日(日・祝)に県下9カ所で行ない、120名を超えるボランティアさんの呼びかけで、344,369円の善意が寄せられました。ありがとうございました。

住吉会場



伊丹会場



西宮会場



三宮会場



元町会場



垂水会場



名谷会場



姫路会場



### ボランティア チーム紹介 事務チーム

#### 「笑顔がモットー」

「はい、日本ユニセフ協会兵庫県支部の です」と電話をとります。

現在事務チームに所属しているのは9名。週1回当番制で活動をしています。内容はユニセフ視聴覚ライブラリーの貸し出し、ユニセフ募金の入金、電話対応、発送業務と事務所内で忙しく過ごします。事務所での、ユニセフカードやグッズの頒布対応も事務チームの役割です。ユニセフの活動にかかわって



くださる皆さんに、気持ちをこめて「笑顔がモットー」に頑張っています。月1回のチーム会では、「こうすれ

県支部ボランティア 田中素子

ばもっとボランティアがうごきやすいのでは?」「もっとわかりやすいライブラリーの管理のしかたは?・・・」など、時間を忘れて話し合っています。

多くの皆様にご協力をいただいた12月の全国一斉街頭募金活動「ハンド・イン・ハンド」、3月の「ユニセフのつどい」と大きな行事が続き忙しい毎日でしたが、ボランティアとしてのやりがい感も大いに感じています。事務チームも大きな役割を担って忙しい毎日が続きます。

#### 「ブルキナファソ報告」 11月24日(土)生活文化センター5階

UNIES 青木梨花

大阪大学外国語学科2年生で学生ボランティアチーム・ユニーズのメンバーでもある青木梨花さんがブルキナファソ協会主催のスタディツアーに参加しました。9月初旬の2週間の滞在期間に、自分の目で見、自分が体験した生のブルキナファソについて報告をしました。

ブルキナファソはアフリカ大陸の北西部に位置し、面積は日本の約70%、人口は日本の約1/10、農業に約80%が従事している国です。公用語はフランス語で、学校でもフ



ランス語を教えています。親の理解不足や高額授業料・卒業後の就職先の心配など多くの問題を抱えて就学率は低く、識字率は約20%です。

夏休み中の教師と交流をした青木さんは、教師の待遇の悪さにも驚いたようでした。一般家庭の普段の生活・まちの様子などを見学・体験した青木さんは「ブルキナファソの発展には農業の発展と教育制度の充実、産業の発展と雇用の拡大が必要」と感じたそうです。

今回のスタディツアーでJICAや各国のNGOの活動を間近に見た青木さんは、未開発国の教育の改善などを考える国際機関で働きたいと将来の夢に胸をふくらませています。

組合員まつりに参加

9月末の、コープ上郡から始まり11月中旬の姫路東まで、コープこうべの店舗などで行われた組合員祭りでユニセフ製品の頒布活動をしました。計15会場に延べ48人のメンバーが参加して組合員の皆さんにユニセフの活動について広くお知らせしました。

コープこうべでの活動は、いつも組合員の皆さんの温かいご支援に支えられ、ユニセフ活動の楽しさを満喫させてもらっています。(ユニセフひめじオリープの会)

10月27日(土)・28日(日)  
播磨科学公園都市

ふれあいフェスティバル2007  
に参加

パネル展示・ユニセフ製品の頒布活動を通してユニセフの啓蒙活動をしました。コーヒーなど飲み物の販売も初めて体験し、収益金47,042円を募金しました。



展示していた地雷には、男性や子どもたちから関心や質問が寄せられ、会話が広がるのをうれしく感じました。2日間の活動が終わったあとは、とても清々しい気持ちだったのが印象的でした。(ユニセフひめじオリープの会)

11月17日(土)・18日(日)あいめっせ  
あいめっせフェスティバル2007  
「来て見て知って  
変わるんですわたし!」に参加

パネル展示とカード・グッズの頒布活動を延べ21名のメンバーで参加しました。姫路市男女共同参画センターに登録している他の団体との交流も楽しみました。今後は専門学校や大学・諸団体にも参加の働きかけをしていけたらと感じました。(ユニセフひめじオリープの会)

11月28日(水)～12月1日(土)  
加古川市民ギャラリー  
ユニセフパネル展  
「HIV/エイズの危機と子どもたち」  
を開催



アジアのHIV/エイズの状況を撮影しつづけている写真家・後藤 勝氏の写真を中心に、HIV/エイズがもたらす被害の様子、危険にさらされている子どもたちの現状などを紹介しました。延べ21人のメンバーが参加し、展示会を通じてネットワークが広がるのを実感しました。今後とも継続することによってユニセフへの理解を広めていきたいと思ひます。(ユニセフひめじオリープの会)

11月5日(月)  
神戸国際会館こくさいホール  
竹本成徳会長が  
「市民福祉功労賞」を受賞

竹本会長の、永年にわたる地域福祉や国際平和、子どものための活動が認められ、神戸市から同賞が贈られました。ユニセフボランティアやコープこうべの関係者が集まってお祝いの会を催しました。



12月2日(日) 西宮市内

西宮  
ふるさとウォークラリー

多くの市民が西宮の環境・福祉・平和・防災・産業について学びすべての生きものにとって幸せの持続可能な未来社会のあり方を考えるきっかけとなる目的でNPO法人子ども環境支援協会(LEAF)が開催。県支部ボランティアが参加者にチェックポイントでユニセフクイズなどを出して啓発活動しました。



1月31日(木)～2月7日(木)  
コープこうべ生活文化センター展示室  
「ユニセフパネル展」

アグネスチャン大使が視察したインド・ムンバイの様子を写した13枚のパネル「インド経済発展の陰で苦しむ子ども」。総人口11億人の1/3は一日1ドル以下の生活を強いられているという貧困の実態、スラムに住む子どもたちの児童労働、性的搾取などの現実を前に、私たちができることは何かを問う写真展開催になりました。



2月25日(月)  
コープこうべ生活文化センター

第11回理事会、第6回評議員会

理事、評議員のみなさんにお集まりいただき「2007年度事業報告・決算見込み」「2008年度事業計画・収支予算」を審議、承認いただきました。県支部の運動が6年間で大きく広がっていることを喜んでいただくと同時に、会員やユニセフの活動、出前講座の内容など、多岐にわたるご意見をいただきました。



2月10日(日)  
ポートアイランド特設コース  
ユニセフカップ2008 神戸  
バレンタイン・ラブラン

今年で20回目を迎えた「神戸バレンタイン・ラブラン」、男女8種目の約5000人が挑戦し、爽やかに神戸の町を駆け抜けました。「戦争被災児に愛の手を!」をテーマに、ユニセフの活動を支援、参加費から50万円と日本ハム(株)のショップの売上げの一部な

神戸ラブラン チャリティ・ウォーク

同時開催のチャリティー・ウォークは、今年が初めての取り組み、ファミリーや地域の仲間を中心に約750人が参加して楽しいひと時を過ごしました。コースは6キロコース(神戸ハーパランド～市民広場)と4キロコース(神戸空港～市民広場)。途中、神戸の街



並みを眺めたりおしゃべりを楽しみながらの楽しいウォークとなりました。

参加者からは、ひとり100円がユニセフ支援金として募金されました。ゴール会場の市民広場では、ユニセフグッズの頒布を行い多くのご協力を得ることができました。

本山南中学生在がユニセフ一目体験

「トライやるウィーク」でコープこうべ生活文化センターを訪問中の本山南中学生2人が、11月7日、『ロビー喫茶カード頒布』に参加してくれました。頒布活動を通じて「ユニセフの取り組み」を学習する良い機会となったようです。



カード・グッズ頒布活動

各地で行われた交流イベントに参加し、カード・グッズの頒布やユニセフの紹介活動などを行いました。掲載以外にも、コープこうべの「西宮ファミリーフェスタ」(1/20)、「すみよし祭」(3/1)、「宝塚ファミリーフェスタ」(3/16)などにも参加しました。



10/15 コープこうべ「北神組合員のつどい」



10/27～28 コープこうべ「きょうどう学苑祭」



11/4 「ユニセフカップマ ラソン・西宮」



11/17・18 コープこうべ「生活文化センター25周年記念イベント」



12/1 コープこうべ「3地区ボランティアフェスティバル」



2/29 コープこうべ「5地区サークルフェスタ」

ティンガティンガ絵画展

3月8日(土)～3月15日(土)  
コープこうべ生活文化センター1階ロビー

タンザニア大使館等のご協力をいただき実現した絵画展。「ティンガティンガ」はタンザニア・ダルエスサラーム郊外で誕生した絵画スタイルで、名前は創始者のエドワード・サイディ・ティンガティンガからとったもの。

期間中は、タンザニアの民芸品の紹介も行いました。鮮やかな絵画の数々を前に、来場者の多くは、なんともいえない独特の世界に魅せられました。



3月23日(日) 夙川河川敷

西宮チャリティーウォーク

苦楽園夙川河川敷をスタートし、途中いくつかのポイントではクイズなどを楽しみながら、香櫨園浜のゴールを目指しました。約200人の参加者からユニセフ募金にご協力をいただきました。



募金 ありがとうございます

コープこうべ

11月24日、コープこうべハート基金(災害緊急支援基金)から、バングラデシュ・サイクロン緊急募金に500,000円の贈呈がありました。また、12月のユニセフへの集中募金を中心に、組合員のみなさまから12,125,015円の温かい募金をいただきました。



兵庫県いなみ野学園学生自治会  
12月4日、文化祭でのバザーによる収益金(20,000円)をいただきました。



神戸市職員労働組合  
12月6日、バングラデシュ・サイクロン緊急募金(271,024円)をいただきました。



西宮市立大社中学校  
12月11日、生徒会の呼びかけで全校生徒で取り組んだ校内募金をいただきました。

神戸市立太山寺中学校  
生徒会メンバーが中心となり街頭募金(12月11日～15日)を呼びかけました。12月21日、121,286円のユニセフ募金をいただきました。

西宮市立高須中学校  
12月の中旬、校内と街頭で募金活動を実施。12月26日、西宮市教育委員会を通じて、140,000円をバングラデシュ・サイクロン緊急募金にご協力いただきました。



コープこうべ労働組合  
12月26日、バングラデシュ・サイクロン緊急募金(50,000円)をいただきました。



おかえりなさい 川本朋子さん



「地球の裏側で感じたやさしさ」

昨年12月、青年海外協力隊の2年間の任期を終えて、中米のホンジュラス共和国より帰国しました。私は青少年活動の隊員として、現地の同僚と共に、農村地域での子ども会グループの立ち上げと、その活動内容の充実に携わってきました。子どもたちが、「子どもらしく」のびのびと遊び、仲間と一緒に自分の地域を盛り上げる力になってほしい。そんな思いのもとに汗を流した日々でした。



村々で出会った素朴な人たちは、初めて目にする日本人にとまどいながらも、家族のようにあたたかく私を迎え入れてくれました。周りの人たちのやさしさに、いつも支えられてきたように思います。豊かな緑、色鮮やかな鳥たち、どこまでも広がるコーヒー畑.....

今でもホンジュラスを彩る景色やにおいがよみがえってきます。私にとって、これからはずっと特別な国として、心の中に残っていくのに違いありません。

12月22日～24日  
第10回A-BridgeCup



毎年「世界の子どもたちが安心してサッカーができる世界になるように」との願いを込めて開催のサッカー大会。3日間、26の会場で多くの中学生の熱戦が繰り広げられました。90を超えたチームから、心のこもったユニセフ募金100,000円をいただきました。

学習会一覧(2007年10月～2008年3月)

| 訪問日    | 訪問先               | 対象   | 人数  |
|--------|-------------------|------|-----|
| 10月12日 | 神戸市立淡河小学校         | 小1～6 | 63  |
| 10月16日 | 西宮市立津門小学校         | 小6   | 94  |
| 10月22日 | 川西市立東谷小学校         | 小6   | 141 |
| 10月30日 | NPOこども環境活動支援協会    | メンバー | 20  |
| 11月8日  | 須磨みどり幼稚園          | 幼稚園児 | 103 |
| 11月12日 | コープこうべ桜が丘コープ委員会   | 大人   | 15  |
| 11月12日 | コープこうべ夢前コープ委員会    | 大人   | 20  |
| 11月27日 | 奥銀谷小学校            | 小1～6 | 60  |
| 11月29日 | 尼崎市立小園小学校         | 小6   | 150 |
| 11月29日 | 姫路市立八木小学校         | 小6   | 31  |
| 12月12日 | 福崎町立高岡小学校         | 小5,6 | 22  |
| 1月21日  | 西宮市立高木小学校         | 小1～3 | 500 |
| 1月21日  | 西宮市立高木小学校         | 小4～6 | 500 |
| 2月5日   | 赤穂市立坂越小学校         | 小6   | 52  |
| 2月7日   | コープこうべ山本レインボースクール | 大人   | 20  |
| 2月26日  | 丹波市立黒井小学校         | 小6   | 36  |
| 2月27日  | 宝塚市立西谷小学校         | 小6   | 21  |
| 3月4日   | 神戸市立西山児童館         | 小1～6 | 70  |
| 3月5日   | 神戸市立御影北小学校        | 小6   | 40  |

最後に、私たちが受け入れてくださった兵庫支部の方々に感謝し、今後もお付き合いをさせていただきたいと思っています。

約2カ月の実習を終え、本場に素晴らしい体験ができたと思っております。これまで体験してみたいと思っていたのですが、なかなか一歩を踏み出すことができませんでした。この度、学校を通してその機会を得ることができ感謝しています。

報告会・講演会を通じて地域の現状を知り、理解することで、私たちの今後の活動の意味を認識し、何も考えずに活動することよりも良い活動ができると感じました。また、それを多くの人々が知ることで、援助を必要とする子どもたちをさらに助けられるのではないかと感じました。(中略)

今回、ユニセフの活動への参加を通して思うことは、自分にとってプラスなことは何だったかということ。私が参加した理由は、中学生の頃からボランティア活動を通して子どもの教育に興味があり、世界の子ども達の支援を行っていたユニセフの活動は自分にぴったりだと思ったからです。

『ユニセフ・カードとギフト春・夏号2008』

カード・グッズの購入をご希望の方は、お問い合わせください。  
078-4351605

募金や会員など、あなたができる方法でご協力ください

ユニセフ募金 - ご家庭で学校で職場で -  
いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どもたちの支援活動に使われます。

郵便振替でお願いします  
口座番号: 00190-5-31000  
加入者名: (財)日本ユニセフ協会  
通信欄に「K1-280兵庫」とご記入ください。

会員って

ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会、会費によって支援します。  
一般会員...個人ならどなたでも  
1口 5,000円  
学生会員...18歳以上の学生  
1口 2,000円  
団体会員...団体、法人、企業  
1口 100,000円  
申込み方法についてはお問い合わせください。

緊急募金のお願い

中国大地震緊急募金  
郵便振替: 00190-5-31000  
通信欄に「中国大地震 K1-280兵庫」と記入

ミャンマー・サイクロン緊急募金  
郵便振替: 00190-5-31000  
通信欄に「ミャンマー・サイクロン K1-280兵庫」と記入

スーダン緊急募金  
郵便振替: 00190-5-31000  
通信欄に「スーダン緊急募金 K1-280兵庫」と記入

アフリカ緊急募金  
郵便振替: 00190-5-31000  
通信欄に「アフリカ緊急募金 K1-280兵庫」と記入

自然災害緊急募金  
郵便振替: 00190-5-31000  
通信欄に「自然災害 K1-280兵庫」と記入

人道危機緊急募金  
郵便振替: 00190-5-31000  
通信欄に「人道危機緊急募金 K1-280兵庫」と記入

【共通】  
送金手数料は免除されます。  
口座名義: 財団法人日本ユニセフ協会  
募金は郵便局指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。  
ユニセフへの募金は寄付金控除の対象となります。

ボランティア募集

世界の子どもたちのこと知りたいと思いませんか? 学習会、イベント参加、カード頒布、事務局運営、広報など、関わり方はいろいろあります。若者たち(高校生～大学生)のグル・ブUNIESも参加しています。活動を通じていろいろな人たちとの出会いが広がります。一度のぞいてみてください。

学習会 イベント参加 カード頒布  
事務局運営 広報

Conozcamos Honduras!

「知ってほしい、ホンジュラスのこと」



**とき** 6月28日(土) 13:00 ~ 15:00  
**ところ** コープこうべ生活文化センター4階 第3会議室  
**講師** 川本朋子さん(青年海外協力隊員として2005年12月から2年間ホンジュラスで活動)  
**参加費** 無料 要予約。当日参加も可能です。

協力隊員としての現地での青少年活動の様子や、文化やそこに生きる人びとの生活、そして素朴な暮らしに生きる人々から感じたことを写真を使ってお話いただきます。普段聞き慣れない「ホンジュラス」という国を、少しでも身近に感じられるような、そんな内容です。あなたも、まずは「知る」ことから始めませんか。

ユニ・ボラ塾①～環境～

私たちの生活から切り離すことのできない「環境問題」。持続可能な未来を目指しての視点から、国際平和について考えませんか。

**とき** 7月5日(土) 14:00 ~ 15:30  
**ところ** コープこうべ生活文化センター5階 第5会議室  
**講師** 小川雅由さん(子ども環境活動支援協会・理事)  
**参加費** 無料 要予約。当日参加も可能です。

ユニセフセミナー

「私にできること、考えてみよう」

**とき** 7月19日(土) 13:00 ~ 16:30  
**ところ** コープこうべ生活文化センター4階 第3会議室  
**講師** ユニセフボランティア  
**参加費** 無料 要予約。当日参加も可能です。

知っておきたいユニセフ基礎知識、視察報告の中からユニセフ活動の紹介、参加者による「支援について考える」ワークショップなど、盛りだくさんの内容です。ほっと一息～交流タイム～もあります。

「夏休みユニセフ親子教室」  
～知ること、ふれることから始めよう～

**とき** 8月2日(土) 13:00 ~ 15:30(予定)  
**ところ** コープこうべ生活文化センター4階 第3会議室  
**対象** 小学校4年生以上  
**参加費** 無料 要予約。当日参加も可能です。

世界にはたくさんの国があって、そこで暮らす子どもたちがいます。例えば「水」一つとってもあなたの生活が見えてきます。クイズや外国のお金を調べたりと、身近なところからユニセフ学習に参加しませんか。くわしくはおたずねください。



写真展「シエラレオネ」

元ユニセフ東京事務所広報官・澤良世さんの写真展。人々のたくましく生きる様子や、子どもたちの元気な笑顔など15点を展示します。



**とき** 8月12日(火) ~ 24日(日) 9:00 ~ 18:00  
**ところ** コープこうべ生活文化センター1階 展示室  
**入場** 無料 自由にご覧ください。

開催予告

地球スポンジ

～果てなき回帰～  
 「ジャワ島中部震災救援篇」「終わらない貧困篇(フィリピン)」「パキスタン震災復興篇(前・後編)」「パレスチナ篇3」など

**とき** 8月16日(土) 14:00 ~  
**ところ** コープこうべ生活文化センター2階 ホール  
 主催: コープこうべ生活文化センター  
 後援: 日本ユニセフ協会兵庫県支部

タンザニア・ミュージック&ダンスコンサート 08  
「サウンド・オブ・キリマンジャロ」

**とき** 6月7日(土) 13:30 ~ 15:30  
**ところ** 東灘区民センター「うはらホール」  
 共催: タンザニア大使館、神戸市

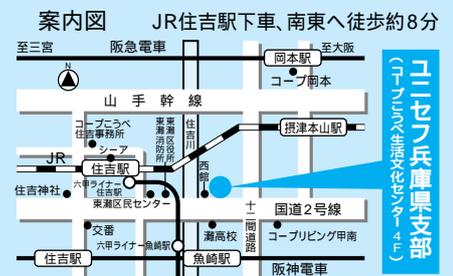
あ と が き

ホームページ <http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

季節がめぐり世界の色々な地域で自然災害が続きます。地球からの悲鳴、警告でしょうか。こんな時こそ隣人と手と手をつなぎ、「祖先からのあずかりもの、美しい地球」を子どもたちに受け継いでいきたいと願います。

Wish Vol.23号(2008年冬・春合併号)  
ユニセフ兵庫ニュース

2008年(平成20年)5月発行(季刊)  
 発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部  
 〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18  
 コープこうべ生活文化センター4F  
 TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830  
 (平日の10時~16時)



ユニセフ兵庫県支部  
(コープこうべ生活文化センター4F)